

宇治田原町農業委員会
浅田 豊春会長(68)



農業・農地の将来を考えて活動
茶・水稲・野菜の栽培が盛んな本町でも、農業者の高齢化、担い手不足が進む中で、5〜10年後、地域の農業と農地を誰が守っていくのか、今のうちに将来を見据えて、人と農地の問題を考え抜くことが大切だ。農業委員会として、地域農業の振興、荒廃農地の解消、担い手への農地利用集積に取り組んでいきたい。

笠置町農業委員会
植田 克巳会長(75)



地域で協力して農地を守る
農地法3条の下限面積要件が撤廃されたので、農地のさまざまな活用を期待し、意欲ある耕作者に良い農地が受け継がれるようにしていきたい。地域計画では「農地の荒廃防止対策」が大きなテーマになるので、地域の実態や課題を把握しながら、どのように農地を守り維持していくか、農業者と意見を出し合い計画を策定していきたい。

新会長の抱負

長岡京市農業委員会
小山 泰弘会長(61)



地域の課題に取り組む
近年、長岡京市では都市化が進み、特に市南部の市街化区域では農地の減少が著しい。一方、現在には農業が盛んな市街化調整区域でも、担い手の高齢化や将来の担い手不足が課題となっている。長岡京市に希望ある農業と豊かな緑を残していくため、関係機関とも力を合わせて、地域農業の振興と農地の保全に努めていきたい。

農家実行組合長・担い手農家が「地区連」に参加

(「地域計画」策定に向け)「現在の耕作者地図」を集落ごとに作成！

八幡市農業委員会

担い手農家、農業委員、市とJAの職員が地図を囲んで話し合った(8月31日、都々地区)



八幡市農業委員会は、8月23、28、31の3日間、市内3地区(八幡、有智郷、都々城)で農家実行組合長と担い手農家に参加したメンバーが情報を出し合い、精度を高めた現況地図が完成した。会議では、若手農業者や実行組合長から「この辺りは農道が狭く、排水が悪い」「ほ場整備が必要」など、地域農業の課題や今後の農業振興の要望について話し合った。今回用意したのは、認定農業者70人ごとに耕作地の色を塗り分けた航空写真地図で、農作業受託などによる耕作者不明の筆がかなりあったが、参加したメンバーが情報を出し合い、精度を高めた現況地図が完成した。会議では、若手農業者や実行組合長から「この辺りは農道が狭く、排水が悪い」「ほ場整備が必要」など、地域農業の課題や今後の農業振興の要望について話し合った。

を行った。

次回用意したのは、認定農業者70人ごとに耕作地の色を塗り分けた航空写真地図で、農作業受託などによる耕作者不明の筆がかなりあったが、参加したメンバーが情報を出し合い、精度を高めた現況地図が完成した。

女性委員が
「つないで発信」

地区連絡会議に参加しました



八幡市では、地域計画策定に向けて8月下旬に地区連絡会議が開催されました。私は中立委員ですが、地元の八幡地区の会議に参加しました。

望についても活発な話し合いが行われた。次回の地区連絡会議は12月に開かれ、今回把握した内容を反映した現況地図を使用して目標地図(案)作成の話し合いが行われる予定だ。

いて話し合いました。

みなさんが地域農業と農地の現状を把握されており、若い担い手からは農業をがんばっていきたいという思いがヒシヒシと伝わってきました。

担い手農家や農家実行組合長が現況地図を囲んで耕作者の確認を行い、地域農業の現状や多様な担い手の掘り起こしについて話し合いました。今後も地域計画の策定や実現のため、地区連絡会議での話し合いが続きそうです。私も参加して、少しでも農業振興の力になれるように日々活動しています。

猪飼委員が参加した八幡地区連絡会議(8月23日)

女性・若手の声を反映！

施策改善の意見書を市長に提出

南丹市農業委員会



農業委員会の上田会長(中央)と野中会長職務代理(右)から西村市長に要請した(10月13日)

南丹市農業委員会は、7月に行った「若手農業者や女性農業者との意見交換会」で出された提案を盛り込み、10月13日、同市の施策の改善に関する意見書を西村良平市長に提出した。

女性農業者の支援施策では、保育士を増員して保育施設の待機乳児解消を図ることや、民間企業の従業員並みの産休育休支援制度を創設することを提案した。また、市独自施策として、アナグマなど小動物の捕獲支援、低家賃住宅の確保による新規就農者支援、経営規模にかかわらずきめ細かな生産資材

高騰対策や米価下落対策を実施することなどを要望した。

西村市長は、「農地と担い手の課題に取り組む上で、タフレットを活用した農業委員会の取り組みに期待したい」など述べ、農業委員会と連携して農家の要望に応えた施策を検討する考えを示した。

伊根町・町農業委員会



10月12日に行われた大原地区と新井地区の連絡会では、町地域整備課(農業委員会事務局)が地域計画のポイント(目標地図の作り方、京力農場プランとの違い)を説明し、皆で将来の地域農業を担う者(多様な担い手)を明確にする話し合いを呼びかけた。

伊根町は、10月12日から25日まで町内7地区で「地域計画策定に向けた地区連絡会」を開催した。今回の連絡会は、担当の農業委員・農地利用最適化推進委員のほか、各集落の区長や兼業農家・自給的農家を含む、多様な農業者に参加を呼びかけて実施した。

地域計画説明会を7地区で開催

農deきらみ

京都市 木下農園 木下尚彦さん

売り切れ御免
とれたて完熟いちご
大人気



来シーズンに向けて苗づくりに励む木下さん

京都市南区と久御山町でいちご(章姫など)を栽培し、完熟果実のみを収穫して、その日のうちに自宅前の直売所で販売している木下尚彦さん。

「消費者に近い優位性を活かして、鮮度こだわりの作り、作物本来のおいしさを伝えたい」と考え、いちごの直売で勝負している。

木下さんは、「いちごのお客さんに、環境負荷軽減や自然を大切にする気持ちも一緒に伝えていきたい」と熱い想いを語ってくれた。

(京都市農業委員会)